

教養教育科目

講義科目

科目名： <b>異文化コミュニケーション論</b>			科目コード	GA46
科目主査： <b>池田 るり子</b>			単位	2
			配当年次	1
<b>科目の概要</b> 異文化とは、自分が属する文化以外のすべての文化を指す相対的な概念であり、異文化の相手からみれば、自分もまた「異文化の相手」です。文化を異にするもの間のやりとりが異文化コミュニケーションであり、自分と異なる文化を意識し尊重することが重要となります。本科目では、地域や人種の相違などを中心に、「異文化」について理解し、さらに、想定される様々なケースについて具体的に考察し、実際の場面で応用可能な異文化コミュニケーションに関する知識の習得を目指します。				
履修の前提となる科目		<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名：	
科目の到達目標	①異文化についての今日的意味を理解し、異文化コミュニケーションを理解する上で必要な基本概念を適切な表現で説明できる。 ②自らの省察力を高め、よりよい異文化コミュニケーターとしての素養を身につける。 ③現代社会の異文化摩擦状況に関心を持ち、より適切なコミュニケーションへの感受性を高める。			
テキスト	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』石井 敏 他，有斐閣，2013年			
<b>成績評価の方法</b>				
<b>客観問題</b>		<b>記述問題</b>		
客観問題の評価割合は40%です。		記述問題の評価割合は60%です。		
事後学習	異文化コミュニケーターとしての自分を客観的に振り返り、知識や理論・様々なアプローチ方法が実際の場面でどう応用できるか、自身の過去および現在の活動状況に照らし合わせて再考するとともに、自己のコミュニケーションの長所や弱点を考えましょう。			
<b>さらに学習を深めるための参考文献</b>				
『異文化理解』青木 保，岩波新書，2001年 『わかりあえないことから -コミュニケーション能力とは何か』平田 オリザ，講談社現代新書，2012年 『「世界で戦える人材」の条件』渥美 育子，PHPビジネス新書，2013年				